

システム名	MSP
ソフトウェア 略称	SOCCHKV21
適用 バージョン・レベル	V21L20
製品コード	A9316871-2120-1

ソフトウェア説明書

OSIV/MSP

SIMPLIA/VF-SOCCHK V21

このソフトウェア説明書は、

S I M P L I A / V F - S O C C H K V 2 1 V 2 1 L 2 0

について説明したものです。ソフトウェアの使用に先立ち、本書をご一読ください。

なお、本ソフトウェアは、OSIV/F4 MSP(E20)環境においても稼動します。したがって、OSIV/F4 MSP(E20)環境のインストレーションにつきましても、本書をご利用ください。

本ソフトウェアのインストレーションを実施するにあたり、その2週間前までに当社技術員から本ソフトウェアの最新保守情報をお問い合わせのうえ、インストレーションを実施頂くようお願い致します。また、ご不明な点は当社の技術員にお問い合わせください。

なお、本書で用いる記号の意味は次の通りです。

◆参照⇒ 本書の中の参照箇所を示しています。

◆参照【】 “3. 適用マニュアル”に記載されているマニュアルの参照箇所を示しています。

例：◆参照【1】 1. 2・・・ 本書“3. 適用マニュアル”の項番1に記載されているマニュアルより、1. 2を参照

2010年10月

富士通株式会社

1.	機能概要	5
2.	構成プログラム	7
3.	適用マニュアル	8
4.	新機能	9
5.	制限事項・注意事項	1 2
6.	移行上の注意	1 2
7.	ソフトウェア組合せ条件	1 3
8.	入出力装置	1 4
9.	提供媒体形式と内容	1 4
10.	D A S D所要量	1 5
11.	インストレーションの手引	1 6
12.	稼働確認	3 0
13.	日本語名標辞書データ変換プログラム	4 2
14.	適用マニュアルの正誤表	4 6
15.	プログラム修正事項	5 0

1. 機能概要

このソフトウェアは以下の機能を備えている。

詳細は、本書の“3. 適用マニュアル”に記載のマニュアルを参照する。 ◆参照【1】

OSIV/MSP SIMPLIA/VF-SOCCHK (SIMple development & maintenance support Program LIbraries for Application system/Verification Facility of cobol SOurCe CHecK tool)は、YPS/COBOL 及びCOBOL85プログラムのレビュー作業を支援するツールである。

VF-SOCCHK が出力するドキュメントから、テスト工程で発生する障害の多くを、プログラムのレビュー段階で発見することができ、テスト工程での手戻りを削減することができる。

SIMPLIA/VF-SOCCHK は以下の機能を持つ。

1. 1 インタフェースチェックリスト出力機能

下位プログラムを呼び出すときに使用するパラメータと、呼び出された下位プログラムで定義されているパラメータの個数、属性などの正当性をドキュメントに出力する。

このドキュメントにより、プログラム間のインタフェースについての確認ができる。

また、下位プログラムの情報はインタフェース定義作成機能で作成する。

1. 2 CALLパラメータ一覧出力機能

プログラムが下位プログラムを呼び出す(CALL)ときのUSING 句に定義されているパラメータの属性及びパラメータ内の各データ項目の値を、プログラム内で設定しているか参照しているかをドキュメントに出力する。

このドキュメントにより、下位プログラムへのデータの設定もれや、下位プログラムからのデータの判定もれ等を発見できる。

1. 3 PROCパラメータ一覧出力機能

プログラム内の手続部のUSING 句及びENTRY 命令のUSING 句に定義されているパラメータの属性及びパラメータ内の各データ項目の値を、解析対象プログラムにおいて設定しているか参照しているかドキュメントに出力する。

このドキュメントにより、上位プログラムへのデータの設定もれや、上位プログラムからのデータの判定もれ等を発見できる。

1. 4 不当転送チェックリスト出力機能

プログラムで定義されている転送命令などで、送出し側データ項目と受取り側データ項目との、項類・桁数・符号などの正当性をチェックし、その結果をドキュメントに出力する。

このドキュメントにより、誤った転送命令もしくはデータ記述、または誤動作する可能性がある転送命令などを発見できる。

1. 5 データ項目関連図出力機能

解析対象プログラムで定義されている転送命令などの送出し側データ項目と受取り側データ項目の関係付けを、データ部の定義順序に従って図形式でドキュメントを出力する。

このドキュメントにより、出力ファイルや帳票に正しくデータが編集されているかどうかを確認できる。

1. 6 使用項目一覧出力機能

プログラムの手続き部で記述されるデータ項目が、それぞれ受取り側(設定)か、送出し側(参照)かの

判別を行い、データ部の定義順序に、参照・設定情報を付加した一覧をドキュメントに出力する。

このドキュメントにより、データ項目に値を設定しないまま参照するなどの、設定・参照（判定）もれをチェックできる。

1. 7 コンパイルリスト出力機能

コンパイラより出力されるコンパイルリストファイルからコンパイルリストを出力する。

1. 8 インタフェース定義作成機能

インタフェースチェックリスト出力機能で使用する下位プログラムの情報を作成する。作成方法はプログラムを入力する方法と、コピー句を入力する方法の二とおりである。

2. 構成プログラム

このソフトウェアは、表2. 1に示すプログラムから構成されている。

表2. 1 構成プログラム

項番	分 類	プログラム名	バージョン・レベル	備 考
1	インタフェースチェックリスト出力機能 CALLパラメータ一覧出力機能 PROCパラメータ一覧出力機能 コンパイルリスト出力機能 インタフェース定義作成機能	JSMVP000	V21L20	
2	不当転送チェックリスト出力機能 データ項目関連図出力機能 使用項目一覧出力機能	JSMVP010	V21L20	
3	日本語名標辞書変換用	JSMVDICT	V21L20	

3. 適用マニュアル

このソフトウェアに適用されるマニュアルは表3. 1に示すとおりである。

表3. 1 適用マニュアル

項 番	マ ニ ュ ア ル 名 称	マニュアルコード	備 考
1	OSIV SIMPLIA/VF-SOCCHK 解説書	J1M0-9080-01	

4. 新機能

このソフトウェアは以前のバージョンレベルに対して、次のような機能追加及び改良が行われている。

4. 1 V20L11で行われた機能追加・改良

4. 1. 1 システムプログラム記述向け (SD) 機能の対応

COBOL85 V12L10から標準機能となった、システムプログラム記述向け (SD) 機能に対応した。

4. 1. 2 拡張機能の対応

COBOL85 V12L10からの拡張機能に対応した。

以下に、COBOLの予約語ごとのSOCCHKの対応を示す。

4. 1. 2. 1 'ADDRESS OF' で修飾された項目

ー 基本的な対応

設定命令で使用されている場合は、'S'・・・(設定)として扱う。

参照命令で使用されている場合は、'R'・・・(参照)として扱う。

CALL命令時のパラメタとして使用されている場合は、'A'・・・(パラメタ)として扱う。

ー インタフェースチェックリスト出力機能

呼び出し元プログラムのCALL命令に、ADDRESS OFが記述されている場合は、ADDRESS OFのある項目については、暗にUSAGE IS POINTERとして宣言されたX(4)の領域として扱う。

ドキュメントには、呼び出し元プログラムの属性欄に、'A'が表示される。呼び出し先プログラムの項目が、POINTERの場合は、呼び出し先プログラムの属性欄に、'POINT'が表示される。

ー CALLパラメタ一覧出力機能

ドキュメントの値域・意味欄に'ADDRESS OF'を出力し属性欄には何も出力しない。

ー 不当転送チェックリスト出力機能

ADDRESS OFの記述がある一文については、処理対象としない。メッセージを出力し無視する。

ー データ項目関連図出力機能

ADDRESS OFの記述がある一文については、処理対象としない。メッセージを出力し無視する。

4. 1. 2. 2 'LENGTH OF' で修飾された項目

ー 基本的な対応

参照命令で使用されている場合は、'R'・・・(参照)として扱う。

CALL命令時のパラメタとして使用されている場合は、'R'・・・(参照)として扱う。

ー インタフェースチェックリスト出力機能

呼び出し元プログラムのCALL命令にLENGTH OFが記述されている場合は、LENGTH OFのある項目については、基本項目とし、属性はS9(9) BINARYとして扱う。

ドキュメントには、呼び出し元プログラムの属性欄に、'L'が表示される。

ー CALLパラメタ一覧出力機能

CALL命令時にLENGTH OFがある場合は、ドキュメントの値域・意味欄に'LENGTH OF'を出力し属性欄には何も出力しない。

ー 不当転送チェックリスト出力機能

LENGTH OFの記述がある一文については、処理対象としない。メッセージを出力し無視する。

- － データ項目関連図出力機能
LENGTH OFの記述がある一文については、処理対象としない。メッセージを出力し無視する。
4. 1. 2. 3 ‘FUNCTION ADDR’で修飾された項目
- － 基本的な対応
参照されている場合は、‘R’・・・(参照)として扱う。
 - － 不当転送チェックリスト出力機能
FUNCTION ADDRの記述がある一文については、処理対象としない。メッセージを出力し無視する。
 - － データ項目関連図出力機能
FUNCTION ADDRの記述がある一文については、処理対象としない。メッセージを出力し無視する。
4. 1. 2. 4 ‘FUNCTION LENG’で修飾された項目
- － 基本的な対応
参照されている場合は、‘R’・・・(参照)として扱う。
 - － 不当転送チェックリスト出力機能
FUNCTION LENGの記述がある一文については、処理対象としない。メッセージを出力し無視する。
 - － データ項目関連図出力機能
FUNCTION LENGの記述がある一文については、処理対象としない。メッセージを出力し無視する。
4. 1. 2. 5 ポインタ修飾子
- － 基本的な対応
設定命令で使用されている場合は、‘S’・・・(設定)として扱う。
参照命令で使用されている場合は、‘R’・・・(参照)として扱う。
 - － インタフェースチェックリスト出力機能
呼び出し元プログラムのCALL命令にポインタ修飾子が記述されている場合は、被修飾語だけのチェックを行う。
 - － CALLパラメータ一覧出力機能
被修飾語に対して、値域・意味欄に‘BASED ON パラメータアドレス’を出力する。
 - － 不当転送チェックリスト出力機能
ポインタ修飾の記述がある一文については、処理対象としない。メッセージを出力し無視する。
 - － データ項目関連図出力機能
ポインタ修飾の記述がある一文については、処理対象としない。メッセージを出力し無視する。
4. 1. 2. 6 CALL BY CONTENT 定数
SOCCHKでは処理対象としない。メッセージを出力し、その定数を無視する。
4. 1. 2. 7 COMP-4
COMP及びBINARYと同一の扱いとする。
4. 1. 2. 8 DISPLAY-1
DISPLAYと同一の扱いをする。PIC ‘G’が指定されていても、‘N’として対処する。

4. 1. 2. 9 POINTER属性

- CALLパラメータ一覧出力機能及びPROCパラメータ一覧出力機能

インタフェースに関する項目に、POINTER属性がある場合は、属性欄に‘POINT’を表示する。

- 不当転送チェックリスト出力機能

USAGE IS POINTER属性の項目は、属性は符号なしのX(4)とみなしてチェックする。

4. 1. 2. 10 その他の予約語についての注意事項

- TITLE命令

TITLE命令で、翻訳リストと同形式のヘッダー部が記述された場合は、不当転送チェックリスト出力機能、データ項目関連図出力機能及びコンパイルリスト出力機能では、出力結果を保証しない。

- 予約語の属性値

以下の予約語について、SOCCHKにおける属性値を示す。

予約語	属性値
EDIT-COLOR	X(1)
EDIT-CURSOR	
EDIT-MODE	
EDIT-OPTION	
EDIT-STAU	
LINAGE-COUNTER	9(3) BINARY
LINE-COUNTER	9(6) PACKED-DECIMAL
SHIFT-IN	X(1) DISPLAY
SHIFT-OUT	
SORT-CONTROL	X(8)
SORT-CORE-SIZE	S9(8) BINARY
SORT-FILE-SIZE	
SORT-MESSAGE	X(8)
SORT-MODE-SIZE	S9(5) BINARY
SORT-RETURN	S9(4) BINARY
SORT-STATUS	
TALLY	9(5) BINARY
PAGE-COUNTER	9(6) PACKED-DECIMAL
RETURN-CODE	S9(4) BINARY
PROGRAM-STATUS	

4. 2 V21L10で行われた機能追加・改良

4. 2. 1 マルチクラスタ環境における運用

OSIV/MSPスケラブルSCMPシステムにおけるマルチクラスタの運用を可能にした。

4. 3 V21L20で行われた機能追加・改良

4. 3. 1 CURRENT-DATE関数対応

COBOL85 V12L20 PTF91121で追加された組込み関数機能のCURRENT-DATE関数に対応した。

- 不当転送チェックリスト出力機能

CURRENT-DATEが21バイトの英数字項目：X(21)として扱われる。

- データ項目関連図出力機能

CURRENT-DATEがデータ項目として扱われる。

5. 制限事項・注意事項

このソフトウェアでは、マニュアルに記載の事項のうち、使用を制限及び注意しているものがある。

これらの制限事項及び注意事項の内容とその代行方法・解除予定を表5.1に示す。

表5.1 制限事項・注意事項

項番	制限事項・注意事項	備考(代行方法, その他)	解除予定
1	当ソフトウェアを認定ライブラリにインストールする, 又は, インストールしたロードモジュールライブラリを認定ライブラリとして使用することはできない。	ジョブ制御文のJOBLIB, 又は, STEPLIB DD文に当ソフトウェアを格納しているロードモジュールライブラリを指定して実行する。	なし
2	インタフェースチェックを全プログラム間で行うやり方は, 処理時間がかかる。	チェックしたいサブルーチン名を制御文で指定したり, 入力プログラムを最小に絞ったりすることが望ましい。	なし
3	本ソフトウェアはOSIV/MPSスケラブルSCMPシステム環境に順応するため, インタフェースファイルの排他的有効範囲を従来のジョブ間からクラスタ間に拡張しており, 排他制御方法を変更している。したがって, V20L11以前のソフトウェアと本ソフトウェアの同一システム上でのインタフェースファイルの共用はできない。	代行方法なし。	未定

6. 移行上の注意

以前のバージョン・レベルからこのソフトウェアに移るときには, 以下の事項に留意しなければならない。

6. 1 V20L10からの移行

- インタフェースファイルのフォーマットが変更になった為, 以前のバージョン・レベルで作成したインタフェースファイルを当バージョン・レベルで再度作成し直す必要がある。再度作成し直さなかった場合は, 当ソフトウェアの動作については保証されない。

7. ソフトウェア組合せ条件

このソフトウェアを使用するときに必要な関連ソフトウェアは、以下のとおりである。

なお、OSIV/MSP(AF2 V10L10)を表7. 1に、OSIV/F4 MSP(E20)を表7. 2に示す。

表7. 1 ソフトウェア組合せ条件(OSIV/MSP(AF2 V10L10))

必要ソフトウェア名	適用V/L	必要条件		備考
		必須	オプション	
COBOL85	12/10以降	○		V12L10の場合は, PTFレベルL91061が必要
ソートマージ	10/30以降	○		
ADJUST	10/50以降	○		V10L50の場合は, PTFレベルL89061が必要
JEF基本辞書	01/92以降	○		
GEM	10/30以降		○	ソースライブラリ又はコピーライブラリがGEMの場合
PFD	10/30以降		○	ソースライブラリが区分編成の場合, いずれか一方が必要
AP/DF	20/10以降		○	
YPS/BASE	10/20以降		○	ソースライブラリがYPS/COBOLで記述されている場合
YPS/COBOL	10/20以降		○	
APSライタ	11/10以降		○	OPRに出力する場合

表7. 2 ソフトウェア組合せ条件(OSIV/F4 MSP(E20))

必要ソフトウェア名	適用V/L	必要条件		備考
		必須	オプション	
COBOL85	11/20以降	○		V12L10の場合は, PTFレベルL91061が必要
ソートマージ	10/10以降	○		
ADJUST	10/40以降	○		V10L50の場合は, PTFレベルL89061が必要
JEF基本辞書	01/91以降	○		
GEM	10/30以降		○	ソースライブラリ又はコピーライブラリがGEMの場合
PFD	10/30以降		○	ソースライブラリが区分編成の場合, いずれか一方が必要
AP/DF	10/40以降		○	
YPS/BASE	10/10以降		○	ソースライブラリがYPS/COBOLで記述されている場合
YPS/COBOL	10/10以降		○	
APSライタ	10/21以降		○	OPRに出力する場合

8. 入出力装置

本ソフトウェアの各ドキュメントの出力が可能なプリンタ装置について説明する。

本ソフトウェアの帳票は、NLP、CLP、OPRで出力することができる。ただし、水平スキップ機能が必要である。また、フォームオーバーレイが出力でき、1行当りのデータ長（バイト）が401バイト以上の帳票が出力できるプリンタであること。

〔補足事項〕

－ CLPでの出力

CLPの印刷モードには、NativeモードとNLPモードの2種類がある、NLPと同様の印刷禁止領域の制御を行う為には、NLPモードを指定する。

－ OPRでの出力

OPRを使用して、各ドキュメントを出力する場合には、フォームオーバーレイ機能（オプション）が搭載されている場合に、フォームオーバーレイの印刷が可能である。

－ APSライタの定義例を以下に示す、また、APSライタの出力はPRTJOBコマンドにより出力する。

DFNWTR ライタ名 UNIT(VTAM端末名 装置タイプ識別名 接続形態) GRAPH IMAGE OVERLAY
EXTENTION(F1) PAGELEN(88 8) ZOOM

〔注意事項〕

－ OPRへの出力は、APSライタでのみ出力可能である。

9. 提供媒体形式と内容

このソフトウェアで提供される媒体の内容は、表9. 1から表9. 2に示すとおりである。

表9. 1 提供媒体形式

ラベル形式	ボリューム通し番号	データセット数	巻数
SL	SOCCHK	8	1

表9. 2 提供媒体内容

格納順番	データセット名	内 容
1	SOCCHK. JCL	インストレーションツール（インストール用ジョブ制御文，実行用ジョブ制御文，フォームオーバーレイソース，稼動確認用テストソースプログラム）のJSECOPY のアンロード版
2	SOCCHK. LOAD	ロードモジュールのJSECOPY のアンロード版
3	SOCCHK. IMAGELIB	イメージライブラリのJSECOPY のアンロード版
4	SOCCHK. MSG	メッセージファイルのJSDGENERのアンロード版
5	SOCCHK. JSMVPINT	稼動確認用インタフェースファイルのJSECOPY のアンロード版
6	SOCCHK. NDICT	稼動確認用日本語名標辞書のJSDGENERのアンロード版
7	SOCCHK. UTYLOAD	日本語名標辞書データ変換プログラムのロードモジュールのJSECOPY のアンロード版 ◆参照⇒13
8	SOCCHK. UTYJCL	日本語名標辞書データ変換プログラムの実行用ジョブ制御文のJSDGENERのアンロード版 ◆参照⇒13

10. DASD所要量

このソフトウェアのインストールを完了したときのDASD所要量の見積りは表10.1に示すとおりである。

表10.1 DASD所要量

単位は各々次のとおり。
 レコード長, ブロック長 : バイト
 ディレクトリ : ブロック
 DASD所要量 : トラック

項 番	データセット名		データセット形式 レコード形式 レコード長 ブロック長	算 出 式			備 考
	標 準 名	変 更 可 否		ディレ クトリ	DASD所要量		
					F6421	F6425	
1	SOCCHK. JCL	可	区分編成 FB 80 3120	4	3	2	
2	SOCCHK. LOAD	可	区分編成 U 0 6144	56	147	98	
3	SOCCHK. IMAGELIB	可	区分編成 U 0 6144	1	30	20	
4	SOCCHK. MSG	可	順 編 成 FB 80 3120	0	2	1	
5	SOCCHK. JSMVPINT	可	区分編成 VB 508 10160	1	2	1	
6	SOCCHK. NDICT	可	順 編 成 FB 94 940	0	2	1	日本語名標辞書を使用する 場合
7	SOCCHK. UTYLOAD	可	区分編成 U 0 6144	1	2	1	日本語名標辞書データ変 換プログラムを使用する 場合
8	SOCCHK. UTYJCL	可	順 編 成 FB 80 3120	0	2	1	日本語名標辞書データ変 換プログラムを使用する 場合

11. インストレーションの手引

このソフトウェアをインストールするための手順を説明する。

この章で使用しているDASD使用量は、すべてF6425換算である。 ◆参照⇒10

インストール手順を図11.1に示す。

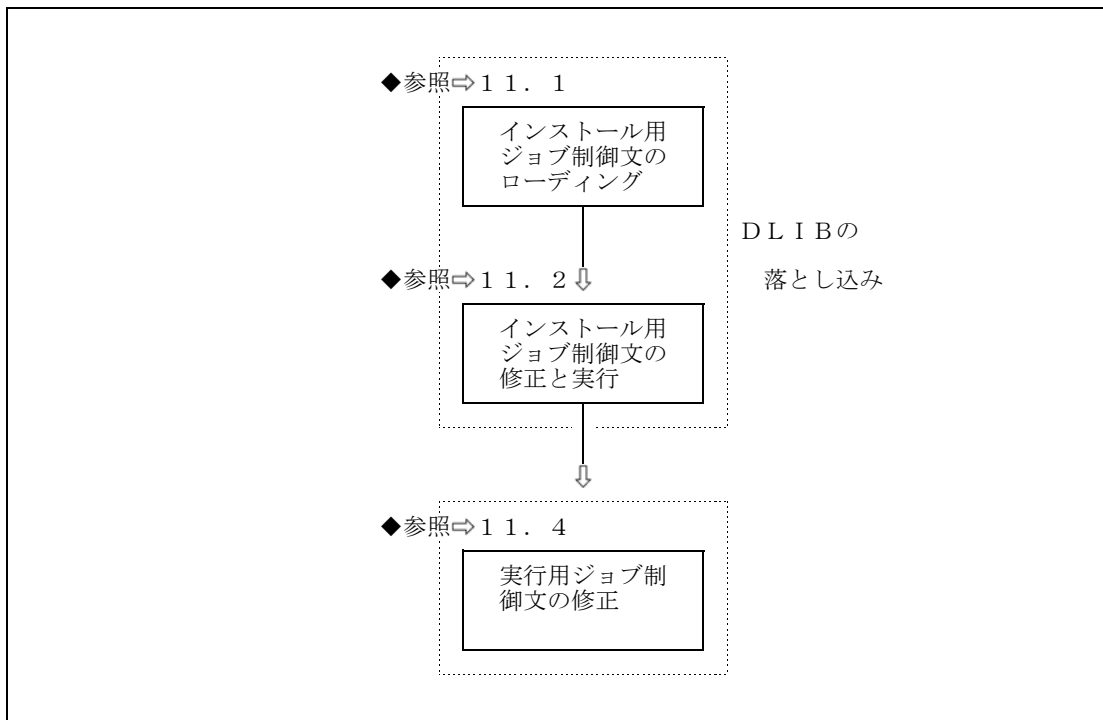


図11.1 インストール手順

11.1 インストール用ジョブ制御文のローディング

インストール用ジョブ制御文は、提供 JCL ファイルの 1 メンバとして提供している。

この提供 JCL ファイルを DASD にローディングするジョブ制御文の例を図 11.2 に示す。

下線部は修正箇所である。

```
//USER01A JOB CLASS=H,MSGCLASS=R
//JOBCAT DD DSN=N8UCAT,DISP=SHR
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY
//IN01 DD DSN=SOCCHK.JCL,UNIT=MT,VOL=SER=SOCCHK,
// LABEL=(1,SL),DISP=(OLD,PASS)
//OUT01 DD DSN=USER01.SOCCHK.JCL,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(2,1,4)),VOL=SER=DASD01
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
/*
//
```

①

図 11.2 インストール用ジョブ制御文をローディングするジョブ制御文 (例)

- ① VF-SOCCHK のインストーションツール (インストール用ジョブ制御文, 実行用ジョブ制御文, フォームオーバーレイソース, 稼動確認用テストソースプログラム) のデータセット名

11.2 インストール用ジョブ制御文の修正と実行

インストールするシステムに応じ、インストール用ジョブ制御文を修正し、実行する。図11.3に、インストール用ジョブ制御文を示す。提供JCLファイルのメンバ'INSTALL'である。
下線部は修正箇所を示す。

```

//USER01X JOB CLASS=H,MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT,DISP=SHR
//REST01 EXEC PGM=JSECOPY
//IN01 DD DSN=SOCCHK.LOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=SOCCHK,LABEL=(02,SL)
//IN02 DD DSN=SOCCHK.IMAGELIB,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=SOCCHK,LABEL=(03,SL)
//OUT01 DD DSN=USER01.SOCCHK.LOAD,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG), ①
// VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(98,1,56),RLSE)
//OUT02 DD DSN=USER01.SOCCHK.IMAGELIB,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG), ②
// VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(20,1,1),RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
COPY INDD=IN02,OUTDD=OUT02
/*
//REST02 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=SOCCHK.MSG,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=SOCCHK,LABEL=(04,SL)
//SYSUT2 DD DSN=USER01.SOCCHK.MSG,DISP=(NEW,CATLG), ③
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),
// VOL=SER=DASD01
//SYSIN DD DUMMY
/*
//REST03 EXEC PGM=JSECOPY
//IN01 DD DSN=SOCCHK.JSMVPINT,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=SOCCHK,LABEL=(05,SL)
//OUT01 DD DSN=USER01.SOCCHK.JSMVPINT,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG), ④
// VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(1,1,1),RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
/*
//REST04 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=SOCCHK.NDICT,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=SOCCHK,LABEL=(06,SL)
//SYSUT2 DD DSN=USER01.SOCCHK.NDICT,DISP=(NEW,CATLG), ⑤
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),
// VOL=SER=DASD01
//SYSIN DD DUMMY
/*
//REST05 EXEC PGM=JSECOPY
//IN01 DD DSN=SOCCHK.UTYLOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=SOCCHK,LABEL=(07,SL)
//OUT01 DD DSN=USER01.SOCCHK.UTYLOAD,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG), ⑥
// VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(1,1,1),RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
/*
//REST06 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=SOCCHK.UTYJCL,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=SOCCHK,LABEL=(08,SL)
//SYSUT2 DD DSN=USER01.SOCCHK.UTYJCL,DISP=(NEW,CATLG), ⑦
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),
// VOL=SER=DASD01
//SYSIN DD DUMMY
/*
//

```

図11.3 インストール用ジョブ制御文

- ① VF-SOCCHKのロードモジュールのデータセット名
- ② VF-SOCCHKのイメージライブラリのデータセット名

- ③ VF-SOCCHKのメッセージファイルのデータセット名
- ④ VF-SOCCHKの稼動確認用インタフェースファイルのデータセット名
- ⑤ VF-SOCCHKの稼動確認用日本語名標辞書のデータセット名
- ⑥ 日本語名称辞書データ変換プログラムのロードモジュールのデータセット名
- ⑦ 日本語名称辞書データ変換プログラムの実行用ジョブ制御文のデータセット名

<補足説明>

・イメージライブラリへのインストールメンバ名は以下のとおりである。

(KOL1VFP1, KOL1VFP2, KOL1VFP3, KOL1VFP4, KOL1VFP5)

11.3 フォームオーバーレイソース

利用者独自のマークを表示する場合や、フォームオーバーレイ識別名を変更する場合などにも、提供JCLファイルに入っているフォームオーバーレイソースを修正して、利用者固有のイメージライブラリを作成できる。(登録時には、'ZOOM'の指定が必要である。)

フォームオーバーレイの修正及び登録方法は、“OS I V / M S P A D J U S T 使用手引書”を参照する。

フォームオーバーレイソースのJCL中のメンバは以下のとおりである。

- VFP1 ———— インタフェースチェックリスト出力機能／不当転送チェックリスト出力機能
- VFP2 ———— CALLパラメータ一覧出力機能
- VFP3 ———— PROCパラメータ一覧出力機能
- VFP4 ———— データ項目関連図出力機能
- VFP5 ———— 使用項目一覧出力機能

11.4 実行用ジョブ制御文の修正

このソフトウェアを稼動させるためのジョブ制御文を修正する。なお、下線部以外にもPARMパラメタ、SYSIN制御文及びシステムに合わせて装置名の修正も行う。

修正を行うJCL中のメンバ名は、以下のとおりである。

- UCHK ———— インタフェースチェックリスト出力機能
- CALL ———— CALLパラメータ一覧出力機能
- PROC ———— PROCパラメータ一覧出力機能
- ITEMCHK ———— 不当転送チェックリスト出力機能
- TRACE ———— データ項目関連図出力機能
- ITEMLST ———— 使用項目一覧出力機能
- COMLST ———— コンパイルリスト出力機能
- INTFILE ———— インタフェース定義作成機能
- JCLALL ———— 全ドキュメントを出力する

<注意事項>

ドキュメント出力JCL中で日本語名標辞書、及びインタフェースファイルは、稼動確認用データセット名を指定しているので、稼動確認後に、自ソースで動かす場合は日本語名標辞書、及びインタフェースファイル名の変更が必要である。

11.4.1 インタフェースチェックリスト出力用ジョブ制御文の修正

インタフェースチェックリスト出力用ジョブ制御文を図11.4に示す。

提供JCLファイルのメンバは'UCHK'である。下線部は修正箇所を示す。

```

//USER01A JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT,DISP=SHR _____ ③
//IMAGELIB DD DSN=USER01.SOCCHK.IMAGELIB,DISP=SHR,UNIT=SYSDA, _____ ④
// VOL=SER=DASD01
//COB EXEC PGM=JMN000,REGION=2048K,
// PARM=(APOST,'SOURCE(2)','XREF(FULL)',DCT,COPY, _____ ⑤
// 'CTLCHR(N,W)',NOBJECT)
//SYSPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(NEW,PASS),SPACE=(TRK,(10,10)),
// UNIT=SYSDA,DCB=(LRECL=255,BLKSIZE=5100,RECFM=VBA)
//SYSUT1 DD DSN=&&SYSUT1,UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(200,200))
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,PASS),
// SPACE=(TRK,(10,10)),
// DCB=(LRECL=508,BLKSIZE=10160,RECFM=VB)
//SYSLIN DD DUMMY
//SYSIN DD DSN=USER01.SOCCHK.JCL(PROG0001),DISP=SHR _____ ⑥
//*
//UCHK EXEC PGM=JSMVP000,REGION=2048K,COND=(4,LT,COB),
// PARM='UCHK(NOCOPY,ALL),HANYO,SL=4'
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,DISP=(OLD,DELETE)
//DCTPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(OLD,DELETE)
//JIMLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.NDICT,DISP=SHR _____ ⑦
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMVPLST DD SYSOUT=*,FLASH=VFP1,FCB=STD3 _____ ⑧
//JSMVPINT DD DSN=USER01.SOCCHK.JSMVPINT,DISP=SHR _____ ⑨
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SYSOUT DD DUMMY
//SYSIN DD *
@CALLCHK
 -AREA MEMBER=ALL
//

```

図11.4 インタフェースチェックリスト出力用ジョブ制御文

- ① VF-SOCCHKのロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。
ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ VF-SOCCHKのイメージライブラリを指定する。
- ⑤ COBOL85の翻訳オプションを指定する。
なお, 下記の翻訳オプションは必ず指定する。
SOURCE(2), XREF(FULL), DCT, COPY
- ⑥ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑦ 実行時オプションでHANYO指定時に, 日本語名標辞書を指定する。
- ⑧ 用紙制御イメージ識別子は, 8LPIのものを指定する。
- ⑨ インタフェースファイルを指定する。

11.4.2 CALLパラメタ出力用ジョブ制御文の修正

CALLパラメタ出力用ジョブ制御文を図11.5に示す、提供JCLファイルのメンバは'CALL'である。下線部は修正箇所を示す。

```

//USER01A JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT,DISP=SHR _____ ③
//IMAGELIB DD DSN=USER01.SOCCHK.IMAGELIB,DISP=SHR,UNIT=SYSDA, _____ ④
// VOL=SER=DASD01
//COB EXEC PGM=JMN000,REGION=2048K,
// PARM=(APOST,'SOURCE(2)',XREF(FULL)',DCT,COPY, _____ ⑤
// 'CTLCHR(N,W)',NOBJECT)
//SYSPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(NEW,PASS),SPACE=(TRK,(10,10)),
// UNIT=SYSDA,DCB=(LRECL=255,BLKSIZE=5100,RECFM=VBA)
//SYSUT1 DD DSN=&&SYSUT1,UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(200,200))
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,PASS),
// SPACE=(TRK,(10,10)),
// DCB=(LRECL=508,BLKSIZE=10160,RECFM=VB)
//SYSLIN DD DUMMY
//SYSIN DD DSN=USER01.SOCCHK.JCL(PROG0001),DISP=SHR _____ ⑥
//*
//CALL EXEC PGM=JSMVP000,REGION=2048K,COND=(4,LT,COB),
// PARM=CLIST(CALL),HANYO,SL=4'
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,DISP=(OLD,DELETE)
//DCTPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(OLD,DELETE)
//JIMLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.NDICT,DISP=SHR _____ ⑦
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMVPLST DD SYSOUT=*,FLASH=VFP2,FCB=STD3 _____ ⑧
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.5 CALLパラメタ出力用のジョブ制御文

- ① VF-SOCCHKのロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ、COBOL85ライブラリ、ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。
ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ VF-SOCCHKのイメージライブラリを指定する。
- ⑤ COBOL85の翻訳オプションを指定する。
なお、下記の翻訳オプションは必ず指定する。
SOURCE(2), XREF(FULL), DCT, COPY
- ⑥ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑦ 実行時オプションでHANYO指定時に、日本語名標辞書を指定する。
- ⑧ 用紙制御イメージ識別子は、8LPIのものを指定する。

11.4.3 PROCパラメタ出力用ジョブ制御文の修正

PROCパラメタ出力用ジョブ制御文を図11.6に示す、提供JCLファイルのメンバは'PROC'である。下線部は修正箇所を示す。

```

//USER01A JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT,DISP=SHR _____ ③
//IMAGELIB DD DSN=USER01.SOCCHK.IMAGELIB,DISP=SHR,UNIT=SYSDA, _____ ④
// VOL=SER=DASD01
//COB EXEC PGM=JMN000,REGION=2048K,
// PARM=(APOST,'SOURCE(2)','XREF(FULL)',DCT,COPY, _____ ⑤
// 'CTLCHR(N,W)',NOBJECT) _____
//SYSPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(NEW,PASS),SPACE=(TRK,(10,10)),
// UNIT=SYSDA,DCB=(LRECL=255,BLKSIZE=5100,RECFM=VBA)
//SYSUT1 DD DSN=&&SYSUT1,UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(200,200))
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,PASS),
// SPACE=(TRK,(10,10)),
// DCB=(LRECL=508,BLKSIZE=10160,RECFM=VB)
//SYSLIN DD DUMMY
//SYSIN DD DSN=USER01.SOCCHK.JCL(PROG0001),DISP=SHR _____ ⑥
//*
//PROC EXEC PGM=JSMVP000,REGION=2048K,COND=(4,LT,COB),
// PARM=CLIST(PROC),HANYO,SL=4'
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,DISP=(OLD,DELETE)
//DCTPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(OLD,DELETE)
//JIMLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.NDICT,DISP=SHR _____ ⑦
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMVPLST DD SYSOUT=*,FLASH=VFP3,FCB=STD3 _____ ⑧
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.6 PROCパラメタ出力用のジョブ制御文

- ① VF-SOCCHKのロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ、COBOL85ライブラリ、ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。
ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ VF-SOCCHKのイメージライブラリを指定する。
- ⑤ COBOL85の翻訳オプションを指定する。
なお、下記の翻訳オプションは必ず指定する。
SOURCE(2), XREF(FULL), DCT, COPY
- ⑥ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑦ 実行時オプションでHANYO指定時に、日本語名標辞書を指定する。
- ⑧ 用紙制御イメージ識別子は、8LPIのものを指定する。

11.4.4 不当転送チェックリスト出力用ジョブ制御文の修正

不当転送チェックリスト出力用ジョブ制御文を図11.7に示す、提供JCLファイルのメンバは'ITEMCHK'である。下線部は修正箇所を示す。

```

//USER01A JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT,DISP=SHR _____ ③
//IMAGELIB DD DSN=USER01.SOCCHK.IMAGELIB,DISP=SHR,UNIT=SYSDA, _____ ④
// VOL=SER=DASD01
//COB EXEC PGM=JMN000,REGION=2048K,
// PARM=(APOST,'SOURCE(2)',XREF(FULL)',DCT,COPY, _____ ⑤
// 'CTLCHR(N,W)',NOBJECT)
//SYSPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(NEW,PASS),SPACE=(TRK,(10,10)),
// UNIT=SYSDA,DCB=(LRECL=255,BLKSIZE=5100,RECFM=VBA)
//SYSUT1 DD DSN=&&SYSUT1,UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(200,200))
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,PASS),
// SPACE=(TRK,(10,10)),
// DCB=(LRECL=508,BLKSIZE=10160,RECFM=VB)
//SYSLIN DD DUMMY
//SYSIN DD DSN=USER01.SOCCHK.JCL(PROG0001),DISP=SHR _____ ⑥
//*
//ITEMCHK EXEC PGM=JSMVP010,REGION=2048K,COND=(4,LT,COB),
// PARM=ITEMCHK(FREC,FLAG=I,ALL),HANYO,SL=4'
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,DISP=(OLD,DELETE)
//DCTPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(OLD,DELETE)
//JIMLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.NDICT,DISP=SHR _____ ⑦
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMVPLST DD SYSOUT=*,FLASH=VFPI,FCB=STD3 _____ ⑧
//JSMVPMMSG DD DSN=USER01.SOCCHK.MSG,DISP=SHR _____ ⑨
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.7 不当転送チェックリスト出力用ジョブ制御文

- ① VF-SOCCHKのロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。
ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ VF-SOCCHKのイメージライブラリを指定する。
- ⑤ COBOL85の翻訳オプションを指定する。
なお、下記の翻訳オプションは必ず指定する。
SOURCE(2), XREF(FULL), DCT, COPY
- ⑥ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑦ 実行時オプションでHANYO指定時に、日本語名標辞書を指定する。
- ⑧ 用紙制御イメージ識別子は、8LPIのものを指定する。
- ⑨ メッセージファイルを指定する。

11.4.5 データ項目関連図出力用ジョブ制御文の修正

データ項目関連図出力用ジョブ制御文を図11.8に示す。提供JCLファイルのメンバは 'TRACE' である。下線部は修正箇所を示す。

```

//USER01A JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT,DISP=SHR _____ ③
//IMAGELIB DD DSN=USER01.SOCCHK.IMAGELIB,DISP=SHR,UNIT=SYSDA, _____ ④
// VOL=SER=DASD01
//COB EXEC PGM=JMN000,REGION=2048K,
// PARM=(APOST,'SOURCE(2)','XREF(FULL)',DCT,COPY, _____ ⑤
// 'CTLCHR(N,W)',NOBJECT)
//SYSPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(NEW,PASS),SPACE=(TRK,(10,10)),
// UNIT=SYSDA,DCB=(LRECL=255,BLKSIZE=5100,RECFM=VBA)
//SYSUT1 DD DSN=&&SYSUT1,UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(200,200))
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,PASS),
// SPACE=(TRK,(10,10)),
// DCB=(LRECL=508,BLKSIZE=10160,RECFM=VB)
//SYSLIN DD DUMMY
//SYSIN DD DSN=USER01.SOCCHK.JCL(PROG0001),DISP=SHR _____ ⑥
//*
//TRACE EXEC PGM=JSMVP010,REGION=2048K,COND=(4,LT,COB),
// PARM='TRACE(PGM,DUP,FREC),HANYO,SL=4'
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,DISP=(OLD,DELETE)
//DCTPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(OLD,DELETE)
//JIMLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.NDICT,DISP=SHR _____ ⑦
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMVPLST DD SYSOUT=*,FLASH=VFP4,FCB=STD3 _____ ⑧
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SYSOUT DD DUMMY
//SYSIN DD *
@EDITCHK
-Area ALL
//

```

図11.8 データ項目関連図出力用ジョブ制御文

- ① VF-SOCCHKのロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。
ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ VF-SOCCHKのイメージライブラリを指定する。
- ⑤ COBOL85の翻訳オプションを指定する。
なお, 下記の翻訳オプションは必ず指定する。
SOURCE(2), XREF(FULL), DCT, COPY
- ⑥ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑦ 実行時オプションでHANYO指定時に, 日本語名標辞書を指定する。
- ⑧ 用紙制御イメージ識別子は, 8LPIのものを指定する。

11.4.6 使用項目一覧出力用ジョブ制御文の修正

使用項目一覧出力用ジョブ制御文を図11.9に示す。提供JCLファイルのメンバ'ITEMLST'である。下線部は修正箇所を示す。

```

//USER01A JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT,DISP=SHR _____ ③
//IMAGELIB DD DSN=USER01.SOCCHK.IMAGELIB,DISP=SHR,UNIT=SYSDA, _____ ④
// VOL=SER=DASD01
//COB EXEC PGM=JMN000,REGION=2048K,
// PARM=(APOST,'SOURCE(2)','XREF(FULL)',DCT,COPY, _____ ⑤
// 'CTLCHR(N,W)',NOBJECT)
//SYSPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(NEW,PASS),SPACE=(TRK,(10,10)),
// UNIT=SYSDA,DCB=(LRECL=255,BLKSIZE=5100,RECFM=VBA)
//SYSUT1 DD DSN=&&SYSUT1,UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(200,200))
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,PASS),
// SPACE=(TRK,(10,10)),
// DCB=(LRECL=508,BLKSIZE=10160,RECFM=VB)
//SYSLIN DD DUMMY
//SYSIN DD DSN=USER01.SOCCHK.JCL(PROG0001),DISP=SHR _____ ⑥
//*
//ITEMLST EXEC PGM=JSMVP010,REGION=2048K,COND=(4,LT,COB),
// PARM='ITEMLST(PGM),HANYO,SL=4'
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,DISP=(OLD,DELETE)
//DCTPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(OLD,DELETE)
//JIMLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.NDICT,DISP=SHR _____ ⑦
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMVPLST DD SYSOUT=*,FLASH=VFP5,FCB=STD3 _____ ⑧
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SYSOUT DD DUMMY
//SYSIN DD *
@EDITCHK
-Area WORK
//

```

図11.9 使用項目一覧出力用ジョブ制御文

- ① VF-SOCCHKのロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。
ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ VF-SOCCHKのイメージライブラリを指定する。
- ⑤ COBOL85の翻訳オプションを指定する。
なお, 下記の翻訳オプションは必ず指定する。
SOURCE(2), XREF(FULL), DCT, COPY
- ⑥ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑦ 実行時オプションでHANYO指定時に, 日本語名標辞書を指定する。
- ⑧ 用紙制御イメージ識別子は, 8LPIのものを指定する。

11.4.7 コンパイルリスト出力用ジョブ制御文の修正

コンパイルリスト出力用ジョブ制御文を図11.10に示す。提供JCLファイルのメンバ'COMLST'である。下線部は修正箇所を示す。

```

//USER01A JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.AJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT,DISP=SHR _____ ③
//COB EXEC PGM=JMN000,REGION=2048K,
// PARM=(APOST,'SOURCE(2)','XREF(FULL)',DCT,COPY, _____ ④
// 'CTLCHR(N,W)',NOBJECT)
//SYS PRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(NEW,PASS),SPACE=(TRK,(10,10)),
// UNIT=SYSDA,DCB=(LRECL=255,BLKSIZE=5100,RECFM=VBA)
//SYSUT1 DD DSN=&&SYSUT1,UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(200,200))
//SYS DCT DD DUMMY
//SYS LIN DD DUMMY
//SYS IN DD DSN=USER01.SOCCHK.JCL(PROG0001),DISP=SHR _____ ⑤
//*
//COMLST EXEC PGM=JSMVP000,REGION=2048K,COND=(EVEN),
// PARM='COMLST(XREF=SHORT)'
//DCT PRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(OLD,DELETE)
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT2 DD SYSOUT=*
//

```

図11.10 コンパイルリスト出力用ジョブ制御文

- ① VF-SOCCHKのロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。
ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ COBOL85の翻訳オプションを指定する。
なお, 下記の翻訳オプションは必ず指定する。
SOURCE(2), XREF(FULL), DCT, COPY
- ⑤ 入力元のソースライブラリを指定する。

11.4.8 インタフェース定義作成用ジョブ制御文の修正

インタフェース定義作成用ジョブ制御文を図11.11に示す。提供JCLファイルのメンバは'INTFILE'である。下線部は修正箇所を示す。

```

//USER01A JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT,DISP=SHR _____ ③
//COB EXEC PGM=JMN000,REGION=2048K,
// PARM=(APOST,'SOURCE(2)','XREF(FULL)',DCT,COPY, _____ ④
// 'CTLCHR(N,W)',NOBJECT)
//SYS PRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(NEW,PASS),SPACE=(TRK,(10,10)),
// UNIT=SYSDA,DCB=(LRECL=255,BLKSIZE=5100,RECFM=VBA)
//SYS UT1 DD DSN=&&SYSUT1,UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(200,200))
//SYS DCT DD DSN=&&SYS DCT,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,PASS),
// SPACE=(TRK,(10,10)),
// DCB=(LRECL=508,BLKSIZE=10160,RECFM=VB)
//SYS LIN DD DUMMY
//SYS IN DD DSN=USER01.SOCCHK.JCL(PROG0002),DISP=SHR _____ ⑤
//*
//INT EXEC PGM=JSMVP000,REGION=2048K,COND=(4,LT,COB),
// PARM=INTFILE(CRE=REP,SOC)
//SYS DCT DD DSN=&&SYS DCT,DISP=(OLD,DELETE)
//DCT PRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(OLD,DELETE)
//JSMVP INT DD DSN=USER01.SOCCHK.INT,DISP=(NEW,CATLG), _____ ⑥
// VOL=SER=DASD01,UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(1,1,1)),
// DCB=(LRECL=508,BLKSIZE=10160,RECFM=VB)
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//JSMVP001 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//JSMVP002 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//JSMVP003 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS OUT DD DUMMY
//SYS IN DD *
@OPTIONS
//

```

図11.11 インタフェース定義作成用ジョブ制御文

- ① VF-SOCCHKのロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。
ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ COBOL85の翻訳オプションを指定する。
なお, 下記の翻訳オプションは必ず指定する。
SOURCE(2), XREF(FULL), DCT, COPY
- ⑤ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑥ インタフェースファイルを指定する。
なお, 稼働確認用インタフェースファイルは指定しないこと。

11.4.9 全ドキュメントを出力するジョブ制御文の修正

全ドキュメントを出力するジョブ制御文を図11.12に示す、提供JCLファイルのメンバは'JCLALL'である。下線部は修正箇所を示す。

```

//USER01A JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT,DISP=SHR _____ ③
//IMAGELIB DD DSN=USER01.SOCCHK.IMAGELIB,DISP=SHR,UNIT=SYSDA, _____ ④
// VOL=SER=DASD01
//*COBOLコンパイル
//COB EXEC PGM=JMN000,REGION=2048K,
// PARM=(APOST,'SOURCE(2)','XREF(FULL)',DCT,COPY, _____ ⑤
// 'CTLCHR(N,W)',NOBJECT)
//SYSPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(NEW,PASS),SPACE=(TRK,(10,10)),
// UNIT=SYSDA,DCB=(LRECL=255,BLKSIZE=5100,RECFM=VBA),
//SYSUT1 DD DSN=&&SYSUT1,UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(200,200))
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,PASS),
// SPACE=(TRK,(10,10)),
// DCB=(LRECL=508,BLKSIZE=10160,RECFM=VB)
//SYSLIN DD DUMMY
//SYSIN DD DSN=USER01.SOCCHK.JCL(PROG0001),DISP=SHR _____ ⑥
//*コンパイルリスト出力
//COMLST EXEC PGM=JSMVP000,REGION=2048K,COND=(EVEN),
// PARM='COMLST(XREF=SHORT)'
//DCTPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(OLD,PASS)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT2 DD SYSOUT=*
//*インタフェースチェックリスト
//UCHK EXEC PGM=JSMVP000,REGION=2048K,COND=(4,LT,COB),
// PARM='UCHK(NOCOPY,ALL),HANYO,SL=4'
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,DISP=(OLD,PASS)
//DCTPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(OLD,PASS)
//JIMLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.NDICT,DISP=SHR _____ ⑦
//JSMVPINT DD DSN=USER01.SOCCHK.JSMVPINT,DISP=SHR _____ ⑧
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMVPLST DD SYSOUT=*,FLASH=VFP1,FCB=STD3 _____ ⑨
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SYSOUT DD DUMMY
//SYSIN DD *
@CALLCHK
-AREA MEMBER=ALL
//*CALLパラメータ一覧
//CLISTC EXEC PGM=JSMVP000,REGION=2048K,COND=(4,LT,COB),
// PARM='CLIST(CALL),HANYO,SL=4'
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,DISP=(OLD,PASS)
//DCTPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(OLD,PASS)
//JIMLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.NDICT,DISP=SHR _____ ⑦
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMVPLST DD SYSOUT=*,FLASH=VFP2,FCB=STD3 _____ ⑨
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SYSOUT DD DUMMY
//*PROCパラメータ一覧
//CLISTP EXEC PGM=JSMVP000,REGION=2048K,COND=(4,LT,COB),
// PARM='CLIST(PROC),HANYO,SL=4'
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,DISP=(OLD,PASS)
//DCTPRINT DD DSN=&&PRINT,DISP=(OLD,PASS)
//JIMLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.NDICT,DISP=SHR _____ ⑦
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMVPLST DD SYSOUT=*,FLASH=VFP3,FCB=STD3 _____ ⑨
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SYSOUT DD DUMMY

```

図11.12 全ドキュメントを出力するジョブ制御文 (続く)

```

// *不当転送チェックリスト -----
// ITEMCHK EXEC PGM=JSMVP010, REGION=2048K, COND=(4, LT, COB),
//   PARM=' ITEMCHK (FREC, FLAG=I, ALL), HANYO, SL=4'
// SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT, DISP=(OLD, PASS)
// DCTPRINT DD DSN=&&PRINT, DISP=(OLD, PASS)
// JIMLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.NDICT, DISP=SHR ----- ⑦
// SYSPRINT DD SYSOUT=*
// JSMVPLST DD SYSOUT=*, FLASH=VFP1, FCB=STD3 ----- ⑨
// JSMVPMMSG DD DSN=USER01.SOCCHK.MSG, DISP=SHR ----- ⑩
// SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
// SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
// SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
// SORTWK04 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
// SYSOUT DD DUMMY
// *データ項目関連図 -----
// TRACE EXEC PGM=JSMVP010, REGION=2048K, COND=(4, LT, COB),
//   PARM=' TRACE (PGM, DUP, FREC), HANYO, SL=4'
// SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT, DISP=(OLD, PASS)
// DCTPRINT DD DSN=&&PRINT, DISP=(OLD, PASS)
// JIMLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.NDICT, DISP=SHR ----- ⑦
// SYSPRINT DD SYSOUT=*
// JSMVPLST DD SYSOUT=*, FLASH=VFP4, FCB=STD3 ----- ⑨
// SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
// SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
// SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
// SORTWK04 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
// SYSOUT DD DUMMY
// SYSIN DD *
@EDITCHK
-Area ALL
// *使用項目一覧 -----
// ITEMST EXEC PGM=JSMVP010, REGION=2048K, COND=(4, LT, COB),
//   PARM=' ITEMST (PGM), HANYO, SL=4'
// SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT, DISP=(OLD, DELETE)
// DCTPRINT DD DSN=&&PRINT, DISP=(OLD, DELETE)
// JIMLIB DD DSN=USER01.SOCCHK.NDICT, DISP=SHR ----- ⑦
// SYSPRINT DD SYSOUT=*
// JSMVPLST DD SYSOUT=*, FLASH=VFP5, FCB=STD3 ----- ⑨
// SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
// SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
// SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
// SORTWK04 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
// SYSOUT DD DUMMY
// SYSIN DD *
@EDITCHK
-Area WORK
//

```

図 1 1 . 1 2 全ドキュメントを出力するジョブ制御文 (続き)

- ① VF-SOCCHKのロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。
ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ VF-SOCCHKのイメージライブラリを指定する。
- ⑤ COBOL85の翻訳オプションを指定する。
なお, 下記の翻訳オプションは必ず指定する。
SOURCE (2), XREF (FULL), DCT, COPY
- ⑥ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑦ 実行時オプションでHANYO指定時に, 日本語名標辞書を指定する。
- ⑧ インタフェースファイルを指定する。
- ⑨ 用紙制御イメージ識別子は, 8LPIのものを指定する。
- ⑩ メッセージファイルを指定する。

12. 稼働確認

このソフトウェアの稼働確認の方法を説明する。

12.1 インタフェースチェックリスト出力機能の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ' UCHK 'を修正し、実行する。図12.1はこのジョブ制御文で出力したドキュメントである。

・ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は“11.4 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同じである。 ◆参照⇒11.4

- 入力元ソースライブラリに提供JCLファイルのデータセット名とメンバ名' PROG0001 'を指定する。
- PARMパラメタに実行時オプション' UCHK (NOCOPY, ALL) , HANYO, SL=4 'を指定する。
- JIMLIB DD文に稼働確認用日本語名標辞書のデータセット名を指定する。
- JSMVPINT DD文に稼働確認用インタフェースファイルのデータセット名を指定する。
- SYSIN制御文に@CALLCHK制御文を指定し、-AREA補助制御文に' MEMBER=ALL 'を指定する。

SIMPLIA/VF-SOCCHK V21L20 (注1) →日付**** 時刻 ****

** インタフェースチェックリスト **

呼び出し元プログラム名：(A/N) PROG0001 (N) プログラム0001

呼び出し先プログラム名	呼び出し元項目	呼び出し先項目
PROG0002 プログラム0002	01 PARA01 パラメタ01	01 PARA01 パラメタ01
	03 PARA011 9(10) パラメタ011	03 PARA011 9(11) ⇒続く パラメタ011
	03 PARA012 9(10) パラメタ012	03 PARA012 9(11) パラメタ012

PAGE 1

依頼/結果	メッセージ
依頼	パラメタの長さが不一致です ← (注2)
依頼	
結果	

注1) 日付・時刻には、インタフェースチェックリストを出力した日付・時刻が出力される。

注2) 1行おきに網掛けが出力される。

図12.1 インタフェースチェックリスト出力機能のドキュメント

12.2 CALLパラメータ一覧出力機能の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'CALL'を修正し、実行する。図12.2はこのジョブ制御文で出力したドキュメントである。

・ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は“11.4 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同じである。◆参照⇒11.4

- 入力元ソースライブラリに提供JCLファイルのデータセット名とメンバ名'PROG0001'を指定する。
- PARMパラメータに実行時オプション'CLIST(CALL), HANYO, SL=4'を指定する。
。
- JIMLIB DD文に稼働確認用日本語名標辞書のデータセット名を指定する。

CALLパラメータ一覧		プログラム名	(A/N)					⇒続く
			(N)	PROGRAM0001 プログラム0001				
下位プログラム名	依頼	結果	NO	レベル	項目名		属性1 (P)	⇒続く
PROG0002 プログラム0002			1	01 03 03	パラメタ01 パラメタ011 パラメタ012	PARA01 PARA011 PARA012	9(10) 9(10)	
~								
~								

		作成日	担当	ページ
(注1)		→****		1
属性2 (U)	繰り返し回数	値域・意味		
← (注2)				
~				
~				

注1) 作成日には、CALLパラメータ一覧を出力した日付が出力される。

注2) 1行おきに網掛けが出力される。

図12.2 CALLパラメータ一覧出力機能のドキュメント

12.3 PROCパラメータ一覧出力機能の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'PROC'を修正し、実行する。図12.3はこのジョブ制御文で出力したドキュメントである。

・ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は“11.4 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同じである。◆参照⇒11.4

- 入力元ソースライブラリに提供JCLファイルのデータセット名とメンバ名'PROG0001'を指定する。
- PARMパラメータに実行時オプション'CLIST(PROC), HANYO, SL=4'を指定する。
。
- JIMLIB DD文に稼働確認用日本語名標辞書のデータセット名を指定する。

PROCパラメータ一覧				プログラム名	(A/N) PROG0001 (N) プログラム0001	エントリ名	(A/N) (N)
依頼	結果	NO	レベル	項目名			属性1 (P)
○ ○	○	1	01 03 03	リンク01 リンク011 リンク012	LINK01 LINK011 LINK012		9(10) 9(10)

				作成日	担当	ページ
			(注1)	****		1
続き⇒	属性2 (U)	繰り返し回数	値域・意味			
	COMP-3					

注1) 作成日には、PROCパラメータ一覧を出力した日付が出力される。

注2) 1行おきに網掛けが出力される。

図12.3 PROCパラメータ一覧出力機能のドキュメント

12.4 不当転送チェックリスト出力機能の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'ITEMCHK'を修正し、実行する。図12.4はこのジョブ制御文で出力したドキュメントである。

・ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は“11.4 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同じである。◆参照⇒11.4

- 入力元ソースライブラリに提供JCLファイルのデータセット名とメンバ名'PROG0001'を指定する。
- PARMパラメタに実行時オプション'ITEMCHK (FREC, FLAG=I, ALL), HAN
YO, SL=4'を指定する。
- JIMLIB DD文に稼働確認用日本語名標辞書のデータセット名を指定する。
- JSMVPMMSG DD文にメッセージファイルのデータセット名を指定する。

SIMPLIA/VF-SOCCHK V21L20 (注1) →日付**** 時刻 ****

** 不当転送チェックリスト **

プログラム名：(A/N) PROG0001 (N) プログラム0001

SEQ	命令	転送元項目名	属性1 (P)	属性2 (U)	
	セクション				
3000	転記	LINK011 リンク011	9(10)	COMP-3	⇒続く

PAGE 1

	転送先項目名	属性1 (P)	属性2 (U)	メッセージ
	第一段落			
続き⇒	LINK012 リンク012	9(10)		

- 注1) 日付・時刻には、不当転送チェックリストを出力した日付・時刻が出力される。
- 注2) 1行おきに網掛けが出力される。

図12.4 不当転送チェックリスト出力機能のドキュメント

12.5 データ項目関連図出力機能の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ' TRACE 'を修正し、実行する。図12.5はこのジョブ制御文で出力したドキュメントである。

・ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は“11.4 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同じである。 ◆参照⇒11.4

- 入力元ソースライブラリに提供JCLファイルのデータセット名とメンバ名' PROG0001 'を指定する。
- PARMパラメタに実行時オプション' TRACE (PGM, DUP, FREC) , HANYO, SL = 4 'を指定する。
- JIMLIB DD文に稼働確認用日本語名標辞書のデータセット名を指定する。
- SYSIN制御文に@EDITCHK制御文を指定し、-AREA補助制御文にALLを指定する。

データ項目関連図	プログラム名	(A/N) PROG0001	セクション名	(A/N)	作成日	担当	ページ
		(N) プログラム0001		(N) 注) →	****		

<pre> 仮引数宣言開始 ├── リンク 0 1 «0001» │ ├── リンク 0 1 2 «0001» │ └── リンク 0 1 1 «0001» 宣言終了 </pre>	<table border="1"> <tr> <td>NO</td> <td>最上位項目名</td> </tr> <tr> <td>0001</td> <td>リンク 0 1</td> </tr> </table>	NO	最上位項目名	0001	リンク 0 1
NO	最上位項目名				
0001	リンク 0 1				

注) 作成日には、データ項目関連図を出力した日付が出力される。

図 1 2 . 5 データ項目関連図出力機能のドキュメント

12.6 使用項目一覧出力機能の稼動確認

提供JCLファイルのメンバ'ITEMLIST'を修正し、実行する。図12.6はこのジョブ制御文で出力したドキュメントである。

・ジョブ制御文の修正

稼動確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は“11.4 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同じである。◆参照⇒11.4

- 入力元ソースライブラリに提供JCLファイルのデータセット名とメンバ名'PROG0001'を指定する。
- PARMパラメタに実行時オプション'ITEMLIST (PGM), HANYO, SL=4'を指定する。
- JIMLIB DD文に稼動確認用日本語名標辞書のデータセット名を指定する。
- SYSIN制御文に@EDITCHK制御文を指定し、-AREA補助制御文にWORKを指定する。

使用項目一覧		プログラム名	(A/N) PROG0001	セクション名	(A/N)
			(N) プログラム0001		(N)
NO	レベル番号	データ項目名 (N)	データ項目名 (A/N)	参照	設定
1	01	パラメタ01	PARA01	○	
2	03	パラメタ011	PARA011		
3	03	パラメタ012	PARA012		
⇒続く					
~					
~					

	作成日	担当	ページ
(注1)	→****		1
備 考			
続き⇒	作業用データ宣言		
	← (注2)		
~			
~			

注1) 作成日には、使用項目一覧を出力した日付が出力される。

注2) 1行おきに網掛けが出力される。

図12.6 使用項目一覧出力機能のドキュメント

13. 日本語名標辞書データ変換プログラム

このプログラムはCOBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者のために提供するものであり、順アクセス形式からランダムアクセス形式（ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティで作成する日本語項目変換辞書の形式）に日本語名標辞書の作成データを変換するものである。

提供媒体の格納番号7でロードモジュールが、格納番号8で実行ジョブ制御文を提供している。

COBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者は、このプログラムで変更した作成データから、ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティでランダムアクセス形式の日本語名標辞書を再作成して、当ソフトウェアで使用されたい。

A) フォーマットの変換方法

当プログラムを使用した場合に、日本語名標辞書の作成データがどのように変換されたかを、図13.1に示し、各フィールドについて説明する。なお、当ソフトウェアで使用可能な日本語名標辞書の形式の詳細については適用マニュアルを参照されたい。

【変更前】

レコード長：120バイト

キー部	読み部	日本語データ部
30バイト	30バイト	60バイト

【変更後】

レコード長：124バイト

キー部		レコード数	有効文字数	日本語データ部	読み部
項目キー	順序番号				
28バイト	2バイト	2バイト	2バイト	60バイト	30バイト

図13.1 フォーマットの変換方法

1) キー部

— 項目キー

変換前の30バイトの後ろ2バイトを切り捨てて、28バイトの項目キーに設定される。

— 順序番号

順序番号に'01'が設定される。

2) レコード数

レコード数に'01'が設定される。

3) 有効文字数

有効文字数に'30'が設定される。

4) 日本語データ部

変換前の日本語データ部の内容がそのまま設定される。

5) 読み部

変換前の読み部の内容がそのまま設定される。

B) 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

当プログラムを使用して、日本語名標辞書を再作成する場合のジョブフローを図13.2に示す。

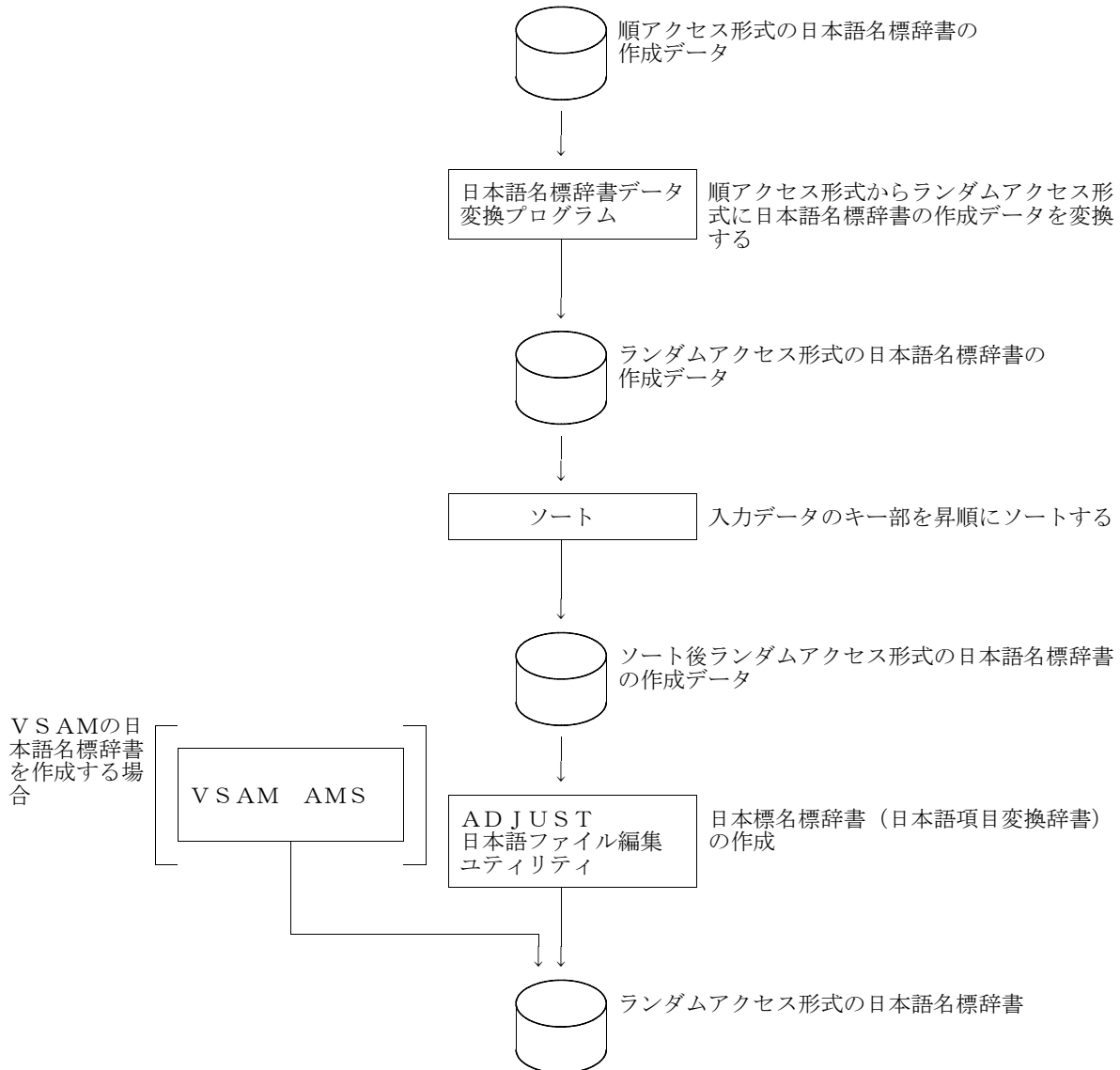


図13.2 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

C) 実行ジョブ制御文

日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文を図13.3に示し、説明する。

下線部は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者のシステムに合わせて変更する。

日本語名標辞書をVSAMで作成しない場合は、KQCAMS1のステップは実行しなくてよい。

```

//USER01A JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//*          日本語名標辞書      再創成          *
//*****
//JOB LIB DD DSN=USER01.SOCCHK.UTYLOAD, DISP=SHR _____ ①
//          DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB, DISP=SHR _____ ②
//          DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB, DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT, DISP=SHR _____ ③
//*****
//*          DEFINE CLUSTER          *
//*****
//KQCAMS1 EXEC PGM=KQCAMS, REGION=960K
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS IN DD *
DEF          CLUSTER          -
              (NAME (USER01.RAN.NDICT)) - _____ ④
              INDEXED          -
              UNIQUE           -
              KEYS (30 0)       -
              IMBED            -
              VOLUMES (DASD01) - _____ ⑤
              REPLICATE        -
              TRACKS (5)        - _____ ⑥
              RECORDSIZ (124 124) -
              DATA            -
              (NAME (USER01.RAN.NDICT.DATA)) - _____ ⑦
              INDEX            -
              (NAME (USER01.RAN.NDICT.INDEX)) - _____ ⑧
//*
//*
//*****
//** 日本語名標辞書 入力データ変換 J C L          *
//** 順アクセス→ランダムアクセス                *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMVDICT
//JSMVJUN DD DSN=USER01.JUN.NDATA, DISP=SHR _____ ⑨
//JSMVRAN DD DSN=&&RAN, DISP=(, PASS), UNIT=SYSDA,
//          DCB=(RECFM=FB, LRECL=124, BLKSIZE=1024),
//          SPACE=(TRK, (50, 10)) _____ ⑩
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//*
//*****
//**          ノート          *
//*****
//SORT1 EXEC PGM=SORT, REGION=1024K
//SYS OUT DD SYSOUT=*
//SORT IN DD DSN=&&RAN, DISP=(OLD, DELETE), UNIT=SYSDA
//SORT OUT DD DSN=&&SOCCHK, DISP=(, PASS), UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(TRK, (50, 10)), _____ ⑩
//          DCB=(RECFM=FB, LRECL=124, BLKSIZE=1240)
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 20))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 20))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 20))
//SYS IN DD *
          SORT FIELDS=(1, 30, CH, A)
//*
//*****
//** 日本語ファイル編集ユティリティ          *
//*****
//JAFE1 EXEC PGM=JRQJAFE
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS LIST DD DUMMY
//SYS IN DD *
- ADD OUT (JAFLIB), FIELDS=((30, A), (2, A, R), (2, A, R), (30, K), (30, A))
- FORMAT SAME
- CHGIN IN (CHGLIB)
- END
//JAFLIB DD DSN=USER01.RAN.NDICT, DISP=SHR _____ ⑪
//CHGLIB DD DSN=&&SOCCHK, DISP=(OLD, DELETE), UNIT=SYSDA
//*

```

図 1 3 . 3 日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文例

- ① 日本語名標辞書データ変換プログラムのロードモジュールが格納されているデータセット名を指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリ及びADJUSTのライブラリを指定する。
- ③ 必要に応じてユーザカタログのデータセット名を指定する。
- ④ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のクラスタ名を指定する。
- ⑤ VSAMの日本語名標辞書を作成するボリューム通し番号を指定する。
- ⑥ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のVSAMデータセットの割当て容量を指定する。
- ⑦ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータ部名を指定する。
- ⑧ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のインデックス部名を指定する。
- ⑨ 順アクセス形式の日本語名標辞書のデータセット名を指定する。
- ⑩ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の作成データセットの割当て容量を指定する。
- ⑪ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータセット名を指定する。

VSAMの場合は、④のクラスタ名を指定し、順編成のランダムアクセス形式の日本語名標辞書を作成する場合は、レコードが124バイトの固定長ブロック化形式のデータセット名を指定する。

D) 注意事項

当プログラムの使用上の注意事項を説明する。

- キー部のデータに重複してあるものがあるなど、入力元の順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データに不備があっても、当プログラムはチェック及びエラー処理を行わないので、そのまま変換される。
- ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の項目キーは28バイト以内でなければならないので、順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのキー部に29バイト以上のデータがある場合、29バイト以降が切り捨てて変換される。

1 4. 適用マニュアルの正誤表

マニュアル名称	マニュアルコード
OSIV SIMPLIA/VF-SOCCHK 解説書	J1M0-9080-01

表 1 4. 1 適用マニュアルの正誤表 (続く)

項番	ページ	行・位置	旧 記 述 (誤)	新 記 述 (正)
1	vii	図表目次	表3.26 インタフェース定義作成機能で使用する必要DD名	表3.26 インタフェース定義作成機能で使用するDD名
2	16	表1.1 必要データセット一覧表 イメージライブラリのブロック長	26793	6144
3	63	LINEオプション	インタフェースチェックリストの1ページ当たりの出力行数を指定する。nの値は13～83である。最大値を超える値は最大値とみなし、最小値に満たない値は最小値とみなす。最小値を指定した場合ヘッダのほか1行だけ出力される。	インタフェースチェックリストの1ページ当たりの出力行数を指定する。nの値は15～99である。最大値を超える値は最大値とみなし、最小値に満たない値は最小値とみなす。
4	79	LINEオプション	CALLパラメータ一覧の1ページ当たりの出力行数を指定するオプションである。nの値は14～99である。最大値を超える値は最大値とみなし、最小値に満たない値は最小値とみなす。最小値を指定した場合は、ヘッダ部を除いて1行しか出力されない。	CALLパラメータ一覧の1ページ当たりの出力行数を指定するオプションである。nの値は15～99である。最大値を超える値は最大値とみなし、最小値に満たない値は最小値とみなす。
5	91	LINEオプション	PROCパラメータ一覧の1ページ当たりの出力行数を指定するオプションである。nの値は14～99である。最大値を超える値は最大値とみなし、最小値に満たない値は最小値とみなす。最小値を指定した場合は、ヘッダ部を除いて1行しか出力されない。	PROCパラメータ一覧の1ページ当たりの出力行数を指定するオプションである。nの値は15～99である。最大値を超える値は最大値とみなし、最小値に満たない値は最小値とみなす。
6	98	⑫の説明文	—————	CURRENT-DATE関数は、利用者定義のデータ項目名と区別するため“@CURRENT-DATE”と表示する。
7	107	LINEオプション	不当転送チェックリストの1ページ当たりの出力行数を指定する。nの値は18～99である。最大値を超える値は最大値とみなし、最小値に満たない値は最小値とみなす。最小値を指定した場合ヘッダのほか1行だけ出力される。	不当転送チェックリストの1ページ当たりの出力行数を指定する。nの値は18～99である。最大値を超える値は最大値とみなし、最小値に満たない値は最小値とみなす。
8	108	プログラムに定義のない項目については、次のとおりとしてチェックする。	—————	FUNCTION CURRENT-DATE : X(21)

表 1 4 . 1 適用マニュアルの正誤表 (続 く)

項番	ページ	行・位置	旧 記 述 (誤)	新 記 述 (正)
9	113	2) データ項目名の出力形式	—————	また、CURRENT-DATE関数は、利用者定義のデータ項目名と区別するため“@CURRENT-DATE”と表示する。
1 0	123	FREC, VRECオプション	当オプションを省略した場合、VRECを指定したものとみなす。	当オプションを省略した場合、VRECを指定したものとみなす。この指定に誤りがあった場合、命令が正しく解析されない場合があるので注意されたい。
1 1	124	LINEオプション	データ項目関連図のの1ページ当たりの出力行数を指定する。nの値は17～99である。 最大値を超える値は最大値とみなし、最小値に満たない値は最小値とみなす。最小値を指定した場合ヘッダのほか1行だけ出力される。	データ項目関連図の1ページ当たりの出力行数を指定する。nの値は21～99である。 最大値を超える値は最大値とみなし、最小値に満たない値は最小値とみなす。
1 2	131	ページの最後	—————	FCOM/UWAのデータ項目は、データ部の作業場所節及び連絡節とは別に出力される。 [出力順イメージ] 作業用データ宣言開始 FCOM/UWAのデータ項目 宣言終了 作業用データ宣言開始 作業場所節に定義した データ項目 宣言終了
1 3	136	表3.22 YPS 仕様書ライブラリのDD名	YPSSOC	YPSLIB
1 4	141	LINEオプション	不当転送チェックリストの1ページ当たりの出力行数を指定する。nの値は14～99である。 最大値を超える値は最大値とみなし、最小値に満たない値は最小値とみなす。最小値を指定した場合ヘッダのほか1行だけ出力される。	使用項目一覧の1ページ当たりの出力行数を指定する。nの値は14～99である。 最大値を超える値は最大値とみなし、最小値に満たない値は最小値とみなす。
1 5	143	1) セクション名を1行に複数個指定する。	— 複数のセクションを一つとみなした形で解析する。	— 複数のセクションを一つとみなした形で解析する。セクション名欄には、先頭セクションだけが出力され、グループとして処理されたことを示す、“*”が表示される。
1 6	150	LINEオプション	ドキュメントの1ページ当たりの出力行数を指定するオプションであり、nは18～999の範囲で指定する。 最小値に満たない値は最小値とみなし、最大値を超える値は最大値とみなす。 最小値を指定した場合は、ヘッダ部を除いて1行しか出力されない。	ドキュメントの1ページ当たりの出力行数を指定するオプションであり、nは18～999の範囲で指定する。 最大値を超える値は最大値とみなし、最小値に満たない値は最小値とみなす。
1 7	155	表3.26 表名	表3.26 インタフェース定義作成機能で使用する必要DD名	表3.26 インタフェース定義作成機能で使用するDD名
1 8	155	表3.26 YPS 仕様書ライブラリのDD名	YPSSOC	YPSLIB

表 1 4 . 1 適用マニュアルの正誤表 (続 く)

項番	ページ	行・位置	旧 記 述 (誤)	新 記 述 (正)
1 9	161	SOC, COPY, NONE オプション	NONE : 手続き見出しに USING 句を もたないプログラムのインタ フェース定義をインタフ ェースファイルに登録する 場合に指定する。この場 合、インタフェースコピー は、不要である。定義の作成 ・登録対象とするメンバは、 SYS DCT ファイル又はインタ フェースコピーライブラリ にメンバ名を指定する。こ の場合、これらのファイル に実際にメンバが存在しな くともよい。 なお、作成済の下位プロ グラムからインタフェース定 義を作成する場合は手続き 部見出し USING 句をもた ないプログラムの場合も、 SOC オプションが使える ので、SOC オプションは使 用しない。	NONE : 手続き見出しに USING 句を もたない下位プログラムの インタフェース定義をイン タフェースファイルに登録 する場合、インタフェース コピーライブラリを入力 して行う場合に指定する。 作成・登録対象とするメン バは、インタフェースコピ ーライブラリにメンバ名を 指定する。この場合、イン タフェースコピーライブラ リに実際にメンバを作成 する必要はない。 なお、手続き部見出しに US ING 句をもたない下位プロ グラムが作成済の場合は、 SOC オプションを指定して インタフェース定義を作成 する。
2 0	162	[記述形式]	<hr/> <p style="text-align: center;">オ ペ ラ ン ド 欄</p> <hr/> $[\text{DPOINT} (\{ \begin{matrix} \text{COMMA} \\ \text{PERIOD} \end{matrix} \})] [, \{ \begin{matrix} \text{QUOTE} \\ \text{APOST} \end{matrix} \}]$ <hr/> <p style="text-align: center;">オ ペ ラ ン ド 欄</p> <hr/> $[\text{DPOINT} (\{ \begin{matrix} \text{COMMA} \\ \text{PERIOD} \end{matrix} \})] [, \{ \begin{matrix} \text{QUOTE} \\ \text{APOST} \end{matrix} \}] [, \text{NCW} (\{ \begin{matrix} \text{STD} \\ \text{SYS} \end{matrix} \})]$ <hr/>	
2 1	162	[オペランドの説 明]		$\text{NCW} (\{ \begin{matrix} \text{STD} \\ \text{SYS} \end{matrix} \})$ <p>コピー句中の日本語文字集合を システム共通とする場合は NCW (ST D)、計算機の日本語文字集合とす る場合は NCW (SYS) を指定する。 NCW オペランドは COBOL85 V12L 20以降の環境で指定可能である。 本オペランドは COBOL85 の NCW オプションに準じており、NCW オ プションの意味については“OSIV COBOL85使用手引書基本編”を参 照されたい。</p>

表 1 4 . 1 適用マニュアルの正誤表 (続き)

項番	ページ	行・位置	旧 記 述 (誤)	新 記 述 (正)
2 2	175	JSMVP042-W	<p>[メッセージの意味] メンバ名mem1はDD名 'SYSDCT' の日付とDD名 'dd' の日付が異なる.</p> <p>[パラメタの意味] dd : DD名 'SYSDCT' との日付の異なるDD名. mem1 : 処理対象とならないメンバ名.</p> <p>[システムの処置] mem1を無視して処理を続行する.</p>	<p>[メッセージの意味] メンバ名mem1はDD名 'SYSDCT' よりDD名 'dd' の方が新しい. またはDD名 'dd' の日付を取得できなかった. 日付を取得できなかった理由としては次のことが考えられる. - 実行時オプションのPFD/APDFとプログラム開発支援システムのPFD/APDFが一致していない. - 対象メンバに日付情報が存在しない.</p> <p>[パラメタの意味] dd : DD名 'SYSDCT' と日付を比較したDD名. mem1 : 対象メンバ名.</p> <p>[システムの処置] 当メッセージを出力して処理を続行する.</p>
2 3	175	JSMVP043-W	<p>[パラメタの意味] dd : DD名 'SYSDCT' に対応していないDD名. mem1 : 処理対象とならないメンバ名.</p> <p>[システムの処置] mem1を無視して処理を続行する.</p>	<p>[パラメタの意味] dd : DD名 'SYSDCT' に対応していないDD名. mem1 : 対象メンバ名.</p> <p>[システムの処置] 当メッセージを出力して処理を続行する.</p>
2 4	192	JSMVP107-W	<p>[メッセージの意味] 解析対象プログラム名…が定義されている為、未対応の句は無視します.</p>	<p>[メッセージの意味] 解析対象プログラム名…が定義されている為、定義情報は無視します.</p>
2 5	196	JSMVP208-W	<p>[メッセージの意味] 解析対象プログラム名…が定義されている為、未対応の句は無視します.</p>	<p>[メッセージの意味] 解析対象プログラム名…が定義されている為、定義情報は無視します.</p>
2 6	209	JSMVP730-W	<p>[メッセージの意味] 解析対象プログラム名…が定義されている為、未対応の句は無視します.</p>	<p>[メッセージの意味] 解析対象プログラム名…が定義されている為、定義情報は無視します.</p>
2 7	199	JSMVP306-W, JSMVP307-W	データ部に定義のあるデータ項目名は…	データ部に定義のないデータ項目名は…

15. プログラム修正事項

前回提供のソフトウェアに対して以下のプログラム修正が行われている。

ただし、機能追加または強化に伴う修正内容を除く。（◆参照⇒4.）

表15.1 プログラム修正事項（続く）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
1	<p>不当転送チェックリスト出力機能において、T0の定義がないADD文に対してデータ部に定義のないデータ項目名は対応していないというエラー(JSMVP306-W)になる。</p> <p>(対処) T0の定義がないADD文でも正常動作するように修正した。</p>	JSMVPA06
2	<p>プロフィール通知をバッチで実行すると、正常終了しているにもかかわらず、完了コードが異常な値になる。(プロフィール通知結果は正常)</p> <p>(対処) プロフィール通知が正常終了した場合は、正常な完了コードになるよう修正した。</p>	JSMVPRF1
3	<p>インタフェースチェックリスト出力機能、CALLパラメタ一覧出力機能、PROCパラメタ一覧出力機能、データ項目関連図出力機能及びインタフェース定義作成機能において、解析対象プログラムが以下の条件を満たす場合、対応していない原始プログラムの入れ子が現れたというエラー(JSMVP050-E又はJSMVP051-E)になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - READY文がある - COBOL85 V12L20 PTF : L93031以降 - AIM V20L10 PTF : D93031(XSPはD94031)以降 - AIM/DB V20L10 PTF : D93031(XSPはD94031)以降 <p>(対処) 上記条件でエラーにならないように修正した。</p>	JSMVP503 JSMVP616 JSMVP702 JSMVPB02
4	<p>データ項目関連図出力機能及びインタフェース定義作成機能において、解析対象プログラムが以下の条件を満たす場合、対応していない原始プログラムの入れ子が現れたというエラー(JSMVP050-E又はJSMVP051-E)になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - サブスキーマ名段落がある - データ部に節がない <p>(対処) 上記条件でエラーにならないように修正した。</p>	JSMVP616 JSMVPB04
5	<p>インタフェースチェックリスト出力機能において、解析対象プログラムが以下の条件を満たす場合、対応していない原始プログラムの入れ子が現れたというエラー(JSMVP050-E又はJSMVP051-E)になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - サブスキーマ名段落がある - READY文がない - 入れ子プログラムがある - 呼び出し元プログラムのデータ部には連絡節のみ存在する - 呼び出し元プログラムが入れ子プログラム以外を呼び出している <p>(対処) 上記条件でエラーにならないように修正した。</p>	JSMVP503
6	<p>データ項目関連図出力機能において、解析対象プログラムが以下の条件を満たす場合、対応していない原始プログラムの入れ子が現れたというエラー(JSMVP050-E又はJSMVP051-E)になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - サブスキーマ名段落がない - データ部に節がない - 入れ子プログラムがない <p>(対処) 上記条件でエラーにならないように修正した。</p>	JSMVPB03
7	<p>XSPのインタフェース定義作成機能において、GEMのインタフェースコピーライブラリを入力した場合、COBOLコンパイラの呼出し失敗というエラー(JSMVP729-S復帰コード=00C4)になる。</p> <p>(対処) GEMのインタフェースコピーライブラリを入力した場合でもインタフェース定義を作成できるように修正した。</p>	JSMVP604 JSMVPI20 JSMVPI21 JSMVPI22 JSMVPI23 JSMVPI24

表 15. 1 プログラム修正事項 (続く)

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
8	<p>インタフェースチェックリスト出力機能において、呼び出し先のプログラム(インタフェースファイルに登録されているプログラム)が以下の条件を満たす場合、SOC4で異常終了する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - サブスキーマ名段落がある - READY 文がない - データ部が連絡節から始まる - 連絡節のパラメタのうちCALL文のUSING 句に指定されていないものがある <p>(対処) インタフェース定義作成機能において、上記条件の場合でも連絡節に定義されている全てのパラメタがインタフェース定義として登録されるように修正した。</p>	J SMVP 6 1 6
9	<p>インタフェースチェックリスト出力機能において、呼び出し元プログラムが以下の条件を満たす場合、呼び出し元項目の属性情報が出力されない。</p> <ul style="list-style-type: none"> - COBOL85 V12 - CALL文のUSING 句で指定されているデータ項目が一つ - (a) 又は (b) (a) CALL文のUSING 句で指定されているデータ項目が連絡節に定義されていて、連絡節に他の項目が存在しない。 (b) CALL文のUSING 句で指定されているデータ項目が連絡節以外に定義されていて、連絡節に項目が存在しない。 <p>(対処) 上記条件の場合でもインタフェースチェックリストの呼び出し元項目の属性情報が出力されるように修正した。</p>	J SMVP 5 0 3
1 0	<p>インタフェースチェックリスト出力機能、CALLパラメタ一覧出力機能、PROCパラメタ一覧出力機能及びインタフェース定義作成機能において、解析対象プログラムが以下の条件を満たす場合、対応していない句が現れたというエラー(JSMVP 107-W, JSMVP208-W又はJSMVP730-W)になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - COBOL85 V12L20 - CHARACTER TYPE句の書き方 1 又は 2 を定義したデータ項目がある <p>(対処) 上記条件でエラーにならないように修正した。</p>	J SMVP 5 1 2 J SMVP 6 1 6 J SMVP 6 1 7 J SMVP 7 0 9
1 1	<p>インタフェースチェックリスト出力機能、CALLパラメタ一覧出力機能及びPROCパラメタ一覧出力機能において、解析対象プログラムが以下の条件を満たす場合、2番目以降のCHARACTER TYPE句が定義されているデータ項目に対して定義情報が重複して出力される。</p> <ul style="list-style-type: none"> - COBOL85 V12L20 - CHARACTER TYPE句を定義したデータ項目が複数ある <p>(対処) 上記条件でCHARACTER TYPE句の情報が重複して出力されないように修正した。</p>	J SMVP 5 1 2 J SMVP 7 0 9
1 2	<p>区分編成のソースライブラリを指定し、PFD/APDFオプションの指定が実際と違う場合、日付チェックのエラーにならない。</p> <p>(対処) 日付チェックにおいて、ソースライブラリが区分編成で更新日時を確認ができない場合、SYSDCTの日付と異なるというエラー(JSMVP042-W)になるように修正した。</p>	J SMVP 9 4 3 J SMVP 9 9 3
1 3	<p>不当転送チェックリスト出力機能及びデータ項目関連図出力機能において、解析対象プログラムの日本語文字に以下の内部コードが含まれる場合、区切り文字と見なし文に誤りがあるとというエラー(JSMVP069-E 又はJSMVP070-E)になる。</p> <p>コンマ “,” [X' 6B'], セミコロン “;” [X' 5E'], コロン “:” [X' 7A'], 終止符 “.” [X' 4B'], 引用符(クォーテーションマーク) “” [X' 7F'], 引用符(アポストロフ) “'” [X' 7D'], 左括弧 “(” [X' 4D'], 右括弧 “)” [X' 5D'], 等号 “=” [X' 7E'], 正号 “+” [X' 4E'], 負号 “-” [X' 60'], 星印 “*” [X' 5C'], 斜線 “/” [X' 61']</p> <p>(対処) 解析対象プログラムの日本語文字に区切り文字と同じコードが含まれる場合でもエラーにならないように修正した。</p>	J SMVP D 0 0 J SMVP D 0 4 J SMVP D 1 6 J SMVP 9 5 3 J SMVP 9 5 6

表15.1 プログラム修正事項 (続き)

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
1 4	<p>インタフェースチェックリスト出力機能、データ項目関連図出力機能及び使用項目一覧出力機能において、SYSIN 制御文に指定した日本語文字に以下の内部コードが含まれる場合、区切り文字と見なしオペランドに誤りがあるというエラー(JSMVP028-E)になる。</p> <p>コンマ “,” [X' 6B'], セミコロン “;” [X' 5E'], コロン “:” [X' 7A'], 終止符 “.” [X' 4B'], 引用符(クォーテーションマーク) “” [X' 7F'], 引用符(アポストロフィ) “'” [X' 7D'], 左括弧 “(” [X' 4D'], 右括弧 “)” [X' 5D'], 等号 “=” [X' 7E'], 正号 “+” [X' 4E'], 負号 “-” [X' 60'], 星印 “*” [X' 5C'], 斜線 “/” [X' 61']</p> <p>(対処) SYSIN 制御文の日本語文字に区切り文字と同じコードが含まれる場合でもエラーにならないように修正した。</p>	<p>J S M V P 3 1 4 J S M V P 3 1 9 J S M V P 3 5 7 J S M V P 3 6 4 J S M V P 9 6 0</p>
1 5	<p>インタフェース定義作成機能においてインタフェースコピー句を入力する場合、COBOL85 V12L20以降で有効な翻訳オプション “NCW(SYS)” で利用できる日本語文字を使用したインタフェースコピー句を入力できない。</p> <p>(対処) COBOL85 V12L20以降の場合、翻訳オプション “NCW(SYS)” をインタフェース定義作成機能のSYSIN 制御文に指定できるように修正した。</p>	<p>J S M V P 3 0 6 J S M V P 3 0 9 J S M V P 3 1 3 J S M V P 3 1 6 J S M V P 6 0 4</p>
1 6	<p>インタフェース定義作成機能においてインタフェースコピー句を入力する場合、SYSIN 制御文の@OPTIONSオペレーションに複数のオペランドを指定すると、APOST(QUOTE)オペランドのみ有効となりそれ以外は無効となる。</p> <p>(対処) SYSIN 制御文の@OPTIONSオペランドに複数のオペランドを指定できるように修正した。</p>	<p>J S M V P 6 0 4</p>

FUJITSU